

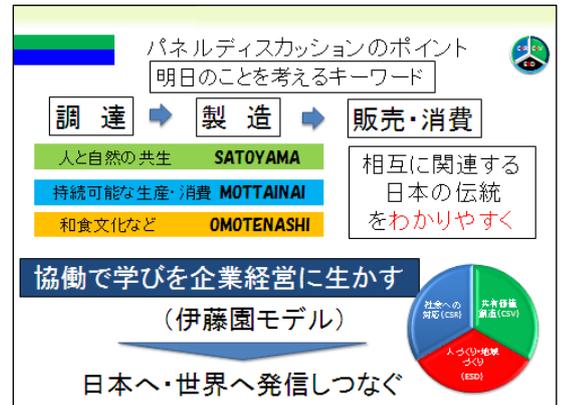
ESD ユネスコ世界会議交流セミナー報告書

団体名 株式会社伊藤園

【ESD ユネスコ世界会議の成果】

〔講演・発表内容〕

伊藤園は、ESD：JAPAN MODEL^(注)「伊藤園のESDに関する取り組みー茶畑から茶殻までー」を事例として、「みんなで学ぶ食と農のOMOTENASHI（おもてなし）・MOTTAINAI（もったいない）・SATOYAMA（里山）のこころ」をテーマにしたシンポジウムを開催。第一部では、伊藤園の取り組みをご紹介します、第二部では、人と自然、異文化交流、和食文化、世界遺産等の有識者にご登壇いただき、食と農を中心に様々な角度からパネルディスカッションを実施。



- パネリスト：松浦晃一郎氏（第8代ユネスコ事務局長）、熊倉功夫氏（「和食会議」会長、静岡文化芸術大学学長）、マリ・クリスティヌ氏（国連ハビタット親善大使、あいち海上の森センター名誉センター長）、馬越恵美子氏（異文化経営学会会長、桜美林大学教授）、鷺谷いづみ氏（「田めになる学校」校長、東京大学教授）
- 司会進行：中嶋美年子氏（元アナウンサー、三菱地所㈱開発推進部マネージャー）
- プレゼンター・ファシリテーター：笹谷秀光（㈱伊藤園常務執行役員）

〔主な成果〕

本シンポジウムでは「ESD 伊藤園モデル」が企業・組織の活動の参考になるとして次のまとめが発信された。

- ①「社会対応力」を磨き、本業を通じて実践する。
- ②パートナーとの協働により、Win-Win 関係を構築する。
- ③人づくり、地域づくりのため、みんなで学ぶ。
- ④OMOTENASHI/MOTTAINAI/SATOYAMA のように、分かりやすく発信する。
- ⑤組織、企業は関係者との協働で持続可能な社会の実現に貢献する。



【今後の展望】

伊藤園では、「国連ESDの10年」（2005～2014年）の後継プログラムである「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」に示された5つの優先的取り組み分野に即して、伊藤園グローバル・アクション・プログラム（GAP）を策定。これを「ESD 伊藤園モデル」として推進し、人づくり、地域づくりへの貢献を強化し、世界のティーカンパニーを目指す。

(注)「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム（代表理事：阿部治氏）が、活動の集大成として日本の優れたESD実践事例を収録したものです。

ESD伊藤園モデル

伊藤園は、5つの点でESDの取り組みを強化します。

1. 政府、自治体等が推進する持続可能開発政策への積極的な協力
2. 全社的なESD推進体制 (CSR推進委員会にESD推進部会)の創設
3. ティーテイスター制度を活用した実践する教育者の育成
4. 若者を含む日本の伝統文化への理解と普及促進の機会の提供（「お〜いお茶新俳句大賞」など）
5. 地域の方々とともに考え、地域活性化へ貢献 (茶産地育成事業の農業技術支援など)